

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

教職実践力高度化コース/  
村川 雅弘

## ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

## 1. 目標・計画

[学部]学部の「総合学習論」「教育課程論」は教科教育とは異なり、学習の目標や内容、方法を具体的に示す教科書のないカリキュラムである。教職に就いた際に、児童生徒及び学校、地域の実態に応じて、学年または学校で主体的・協同的に作り出す部分が多い。①授業内容に関しては、学習指導要領改訂の趣旨やポイントを示すと共に、研究過程において得た優れた事例を取り上げ、どのような実態等の分析・検討を元に開発したのかを考えさせる。②教育方法に関しては、カリキュラム開発や授業づくりの実践力を育成するために、具体的な手だてを示すとともに学生自身に考えさせたり協議させる活動ができるかぎり組み入れる。また、適宜ワークシートを作成し、自己の考えをしっかりと文章化させる活動も重視する。③このワークシートの記述内容も成績評価の対象とする。

[大学院]教職大学院の授業では、①授業内容に関しては、院生や学校現場のニーズを考慮しながら、これまでの実践的な蓄積を改めて整理・検討し理論化・教材化を図る。②授業方法に関しては、これまで研究開発してきたワークショップ型の研修方法を授業の中でも活用し、学校現場に戻った際に学校や地域のミドルリーダーとしての手腕発揮のための具体的な手法の習得をめざす。③成績評価の際には、レポート以外に、ワークショップ等による協同的な作業の成果物も評価する。また、レポート自体が学校現場に戻った際に自らの実践の開発や実施を支えるデータベース的な機能を果たすように工夫する。

## 2. 点検・評価

[学部]①内容に関しては、「教育課程論」では学習指導要領改訂の趣旨やポイント、変遷を映像や文部科学省関連資料により具体的に示した。「総合学習論」においては、研究過程において得た優れた事例を取り上げ、どのような実態等の分析・検討を元に開発したのかを考えさせた。総合学習の優れた実践者2名(村井徹志教諭と石堂裕教諭、いずれも総合的な学習で複数回の全国表彰)を自身の研究費によりゲストティーチャーとして招き、具体的な実践について報告してもらおうと共に、学生からの質問に答えてもらった。②方法に関しては、両科目共に、カリキュラム開発や授業づくりの実践力を育成するため、具体的な手だてを示すとともに学生自身に考えさせたり協議させる活動ができるかぎり組み入れるべく、適宜ワークシートに自己の考えをしっかりと文章化させる活動を取り入れた。③評価に関しては、いずれもワークシートの記述内容も成績評価の対象とした。

[大学院]教職大学院の授業では、①内容に関しては、院生や学校現場のニーズを考慮しながら、これまでの実践的な研究の蓄積を改めて整理・検討し理論化・教材化を図り提示した。新規の「カリキュラムマネジメントの理論と実践」及び「ワークショップ型研修の技法」に関しては、これまでの研究の蓄積をまとめた書籍をテキストとして使用した。いずれの授業も学生から高い評価を得た。②方法に関しては、「ワークショップ型研修の技法」では、これまで研究開発してきたワークショップ型の研修方法を授業の中でも活用し、学校現場に戻った際に学校や地域のミドルリーダーとしての手腕発揮のための手法を実践的に習得させた。学生が学校現場で実施したいワークショップ型研修を提案させ、それを授業の中で試行させ、評価・改善を行ったことは有効であった。③成績評価の際には、レポート以外にワークショップ等による協同的な作業の成果物も評価した。既設修士の「総合学習のカリキュラム開発」では、レポート自体を将来学校現場で実際に授業づくりを行う際のデータベース的な機能を果たすように工夫した。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

平成17年度の「総合演習」をきっかけにサークル(劇団「どや!」)が誕生し、その顧問を担当している。25年度においてもこのサークルを支援する。文部科学省研究開発学校制度創設(昭和51年度)以降の各校の研究報告書の大半を所蔵し、人文棟の一室(A423)に集中管理を行っている。教職大学院も6年目を迎え、この資料の重要性が高まっており、今後も資料公開を進める。これまでに指導した院生・学生は100名近くになる。本学赴任以来二十数年にわたって年1～2回「鳴門セミナー」を実施し、修了生等の研究・実践交流の場としてきた。25年度も8月17・18日に実施予定である。

#### 2. 点検・評価

教職大学院において7名の現職教員を担当しているが、各実習校への教職大学院の目的や趣旨、システムの説明、院生の実習内容や実習方法に対する日常的な指導、実習校での指導・支援を適切に行うことができた。2年生の3つの実習校長からは成果発表会の際に、高い評価と感謝のこぼをいただくことができた。平成17年度から顧問をしているサークル(劇団「どや!」)への支援は年間通して行うことができた。人文棟の一室(A423)に集中管理を行っている文部科学省研究開発学校制度創設(昭和51年度)以降の各校の研究報告書は今年度も自由閲覧できるようにした。これまでに指導した院生・学生は100名近くになるが、本学赴任以来20数年にわたって実施してきた「鳴門セミナー」を本年度も8月に開催した。修了生を中心に約80名の参加が得られた。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

これまで開発してきたワークショップ型研修は学校や教師のカリキュラム開発力向上の方法としてさらに研究を継続する。これらの成果を教職大学院の授業等で紹介・吟味する。また、学習指導要領改訂では全教育活動を通して子どもの思考力・判断力・表現力・言語力・協同性を育むことが求められているが、これまでの研究実績からワークショップ型学習の有効性が明らかになってきている。学校現場と連携を図り総合的な学習や教科等において効果的な学習方法の開発とその体系化を推進する。また、今後学校教育において重要となるカリキュラムマネジメントに関する研究の成果を整理・発信する。効果的な研修の開発に関しては科学研究費を申請している。また、協同的な学習方法の開発に関しては外部資金を獲得できる予定である。これらの研究成果は、書籍や教育雑誌、教育センター等での研修を通して発信し、外部評価を得て、改善や精緻化を進める。カリキュラムマネジメントに関する編著書を25年度に刊行する。

#### 2. 点検・評価

これまで開発してきたワークショップ型研修はさらに研究を継続することができた。その成果を教職大学院の授業等で紹介・吟味することができた。特に、新規の「カリキュラムマネジメントの理論と実践」「ワークショップ型研修の技法」「総合的な学習の時間のカリキュラム開発」のいずれにおいても授業の中で実施し改めて研究成果の手応えを感じる事ができた。学習指導要領改訂では全教育活動を通して子どもの思考力・判断力・表現力・言語力・協同性を育むことが求められているが、これまでの研究実績からワークショップ型学習の有効性が明らかになってきている。特に、福山市立新市小学校や鳥取県八頭郡隼小学校等の公開研究会においてその指導の成果を明らかにすることができた。また、今後学校教育において重要となるカリキュラムマネジメントに関する研究の成果を書籍刊行(『カリマネ』で学校はここまで変わる!!ぎょうせい、2013年10月)の形で整理・発信することができた。効果的な研修の開発に関する科学研究費を獲得することができ、学内外の研究者と推進している。ジェイアール四国コミュニケーションウェアから委託研究を受け、多機能携帯端末を活用したグループ学習に関する研究を現役院生や修了生とプロジェクトチームを結成して実施し、成果報告書にまとめることができた。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

平成24年度より基礎・臨床系教育部の部長を勤めている。24年度は早々に前部長にインタビューを行い、部会議効率化のためのルールを策定し、それを元に会議の準備や運営を行い、一定の成果を得ることができた。今年度においても田村隆宏副部長と協力し、部会議の効率化と活性化に努めるとともに、部全体の活性化に寄与していきたい。また、総務委員会や教育研究評議会を通して、これまでの経験や知識を生かし、少しでも大学全体に貢献する。また、大学及び執行部の意向を部全体に伝えるとともに、部の要望や意向を執行部に伝えていきたい。

### 2. 点検・評価

平成24年度より基礎・臨床系教育部の部長を勤めてきた。24年度は前部長の佐古秀一教授にインタビューを行い、年度早々に部会議効率化のためのルールを策定し、それを元に会議の準備や運営を行い、一定の成果を得ることができた。25年度においても田村隆宏副部長と協力し、部会議の効率化と活性化に努めるとともに、部全体の活性化に寄与することができた。2年間で約20回の部会議があったが、いずれも開始時刻前に定足数が確定し、円滑に進めることができた。また、総務委員会や教育研究評議会でもできるだけ発言をするように心掛けた。大学院改革構想検討委員会では、特に教職大学院に関連することが中心になっているので、積極的に発言するだけでなく、自分なりのプランを自主的に提案することができた。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

附属学校園及び県内外の学校に関しては、教育支援講師・アドバイザー及び徳島市の元気アップ事業、鈴鹿市との連携事業に登録・参加しており、各種要請があれば可能な限り支援・指導を行っていく。26年度の徳島県小学校教育研究会総合部会研究大会会場校の美馬市立重清西小学校には25年度から指導講師として2年間かかわる。文部科学省および教育関連の各種財団の委員、独立行政法人教員研修センターや教育委員会、学校からの指導等の依頼は本務に支障のない範囲で引き受け、社会貢献を果たすとともに、可能な限り本学の大学院学生充足や教育活動等に反映していきたい。次期学習指導要領改訂を見据えた文部科学省の「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討委員会」の委員として研究の成果を生かし積極的に発言していく。

### 2. 点検・評価

教育支援講師・アドバイザー及び徳島市の元気アップ事業、鈴鹿市との連携事業に登録・参加した。県内外を問わず、各種要請があれば可能な限り支援・指導を行った。特に、鈴鹿市に関しては中学校2校の指導支援を行った。年度末の鈴鹿市教育委員会教育長との面談においても高い評価を得ることができた。26年度の徳島県小学校教育研究会総合部会研究大会会場校の美馬市立重清西小学校には2回にわたって指導した。文部科学省および教育関連の各種財団の委員、独立行政法人教員研修センターや教育委員会、学校からの指導等の依頼は本務に支障のない範囲で引き受け、社会貢献を果たすことができた。次期学習指導要領改訂を見据えた文部科学省の「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討委員会」の委員として、特にカリキュラムマネジメントや総合的な学習の時間等に関する研究成果を生かし積極的に発言することができた。なお、この委員会の報告書は3月31日付けで文部科学省のホームページより公表されている。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

9月25日に実施された科学研究費説明会において、申請書の書き方及び獲得のポイントについて講話を行った。